# やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

| | |
|---|---|
| 誌　　名 | やぶなべ会報 |
| 号/発行年/頁 | 33 / 2013 / 57　(再編集版) |
| タイトル | 資料　青森県内のマツクイムシの発生状況 |
| 著　者　名 | 編集部 |

自然を見つめる やぶなべ会（青森）

# 深浦で松くい虫被害

## 県内4例目の確認

### 病原体運ぶカミキリ 昨夏猛暑で北上か

県は17日、深浦町太間越字寛の民有林で県内4例目の松くい虫被害が発生したと発表した。発生場所は秋田県境から北に約1・8㌔の地点で、2011年9月に確認された3例目の付近。県は原因として、昨夏の猛暑などの影響で病原体「マツノザイセンチュウ」を運ぶ虫「マツノマダラカミキリ」が新たに秋田県境付近から北上してきた可能性が高いとし、3例目との関連は薄いとみている。（山内俊一、柳野耕）

松くい虫被害は、体長約1㌢の「マツノザイセンチュウ」がマツ類の樹体内に入り枯死させるもの。今回被害が見つかったのは37年生のクロマツ2本。

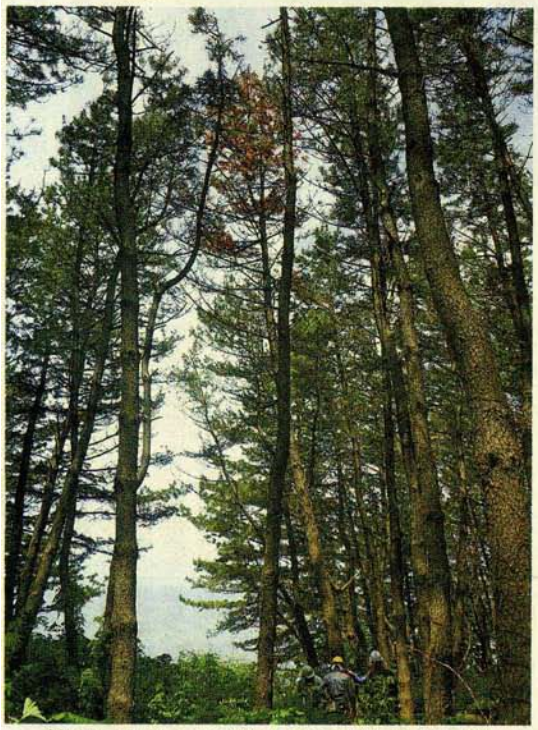
県では秋田県境の北側約6㌔を06年に「特別予防監視区域」に指定し、巡回を強化していた。県などによると、5月30日に西北地域県民局の職員が巡回調査中、枯死木3本を確認。翌31日に周辺を再調査したところ新たに3本の枯死木を発見した。

県産業技術センター林業研究所（平内町）での簡易検査を経て、今月17日に森林総合研究所東北支所（盛岡市）の検査で、2本のクロマツから被害原因の病原体マツノザイセンチュウが検出された。2本を含む枯死木6本は伐倒した上で薫蒸処分した。

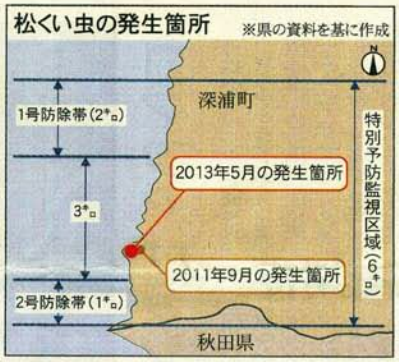
県林政課では、秋に食害を受け温暖になる春以降に被害が発生する「年越し枯れ」と分析。夏場に新たな年越し枯れの被害木が見つかる可能性は低く、県農林水産部の成田博次長は「早期発見で被害の拡大は防止できた」としている。また、12年9月に撮影した空中写真による確認やその後の巡回では異常がなかったことから3例目との関連性はないとみている。

一方、マツノザイセンチュウとマツノマダラカミキリは繁殖力が高いことから全面的な駆除は難しく、猛暑などによる秋田県境からの北上をいかに防止するかが課題となる。

2年ぶりの被害確認を受け、県森林組合連合会の代表理事会長で地元のつがる森林組合の本間家大・代表理事組合長は「県、町と共にあらゆる手だてを講じて防除を行っていきたい」、深浦町の吉田満町長は「被害が拡大しないよう県と連携を密にして、全力で取り組んでいきたい」とそれぞれ語っており、県や町が一体となった被害防止の必要性を訴えた。



被害に遭い1本だけ赤く枯れたクロマツ（中央）＝1日撮影、県林政課提供




発した昨年ほどは見られないとした。

調査結果は来週までに県に報告される。（渋谷紘一）

資料　青森県内のマツクイムシの発生状況

情報として青森県内のマツクイムシ発生状況を報じた記事（陸奥新報2013年6月18日付）を掲げた。マツクイムシが今後、どのような推移をたどるのか、関心のあるところである。記事見出しが「県内4例目」とあるが、青森県公表の資料によれば過去の記録はつぎのようである。

① 2008年9月：平舘漁港の整備工事で県外から持ち込まれ植栽されたクロマツから発生。② 2010年1月：蓬田村の玉松台スポーツガーデン内で自生したクロマツに発生。③ 2011年9月：特別予防監視区域内（深浦町）のクロマツから発生。（編集部）